



TITLE:

# 日本一のクラゲ天国田辺湾(20) カブトクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(20) カブトクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-06-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180153>

RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2011年(平成23年)6月8日 水曜日 第20609号 (10)

カブトクラゲ



△  
透明で見つけにくいカブトクラゲ

触るだけで壊れてしまいそ  
うな脆弱(ぜいじゃく)な体  
をしたこのクラゲは、クシク  
ラゲの仲間、カブトクラゲで  
ある。この種は大型で体長10  
センチになる。  
わが国で最も普通にいる種

久保田 信

20



だが、体が透明なので個々で  
遊泳していると見つけにく  
い。普段は成群になつており、  
夏場の海水浴場で、手を入れ  
る隙間がないほど密集するこ  
とがある。

体の下に、対になった袖状  
の大きな突起があるのが特  
徴。この突起を広げると、全  
体が兜(かぶと)のように見  
えるので、この和名が付けら  
れた。大きな突起の根元には、  
小さな細長い突起が2対4個  
ある。これらの突起を網のよ  
うに使って餌を捕らえる。細  
長い突起を縁取るように繊毛  
が生えているので、遊泳器官

としても使われる。

櫛(くし)のような運動器  
官で一般的には遊泳する。1  
枚の櫛は繊毛が融合してでき  
た板状のものである。これが  
体を縦に8列走り、光がここ  
に当たると干渉して虹色に光  
る。櫛の列の動きは、頂端に  
ある1個の感覚器でコントロ  
ールされ、同調するようにな  
っている。うち4本の櫛の列  
は短い、他の4本は長くて  
袖状の突起にも走っている。  
櫛のすく下には管があつて、  
中に生殖巣ができる。この  
仲間はすべて雌雄同体で、  
雄であり雌である。互いに合  
し合った精子と卵子が受精  
し、小さなクシクラゲになる。  
この幼体には袖状の突起も細  
長い突起もないので、親とは  
形が随分異なる。

櫛の列のすく下を走る管  
は、連続して袖状の突起の中  
も屈曲しながら伸びている。  
このような配管は、食べた栄  
養を体の隅々まで送る仕組み  
である。(京都大学准教授)